



TAKAHAGI next





Takahagi you-field 山間の廃校から始まる地域の物語 —高萩ユーフィールド—

高萩駅から車で30分も走れば深い木々に覆われた山の中に入ります。その山の中にある学校跡が、高萩ユーフィールドです。高萩ユーフィールドは、廃校となった旧君田小・中学校を利用した事業スペース。ドローンスクール、キャンプ場、イベント会場として利用されています。

君田小・中学校は、2016年に惜しまれながら閉校となりました。学校の行事には地域の人々が参加していたそうで、地域は一体となって教育に取り組み、学校は地域のコミュニティの場として機能していました。

その後、君田小・中学校の跡地は高萩ユーフィールドとして生まれ変わり、高萩市の活性化に向けた新たな取り組みの舞台となっています。毎回テーマを設けたイベント「森の学校」が開催されるほか、地元の野菜が販売されています。

高萩ユーフィールドは株式会社ユーフィールドによって運営されていますが、敷地は高萩市の緊急避難所に指定されています。地域のためのスペースとしてみんなが利用できるようになっているのです。その背景には、親会社のイガラシ総業株式会社の経営理念があります。「地域貢献」を掲げる同社の理念が高萩ユーフィールドにも引き継がれているのです。

地域の絆が支える高萩ユーフィールド

高萩ユーフィールドのグラウンド整備はとても手がかります。高萩ユーフィールドのスタッフだけでは、建物の中も外も十分な手入れができないので、地域の方に週に2日ほど草刈りやグラウンドの整備を依頼しています。

高萩ユーフィールドと地域は互いに助け合いながら、高萩市の活性化に取り組んでいます。



高萩ユーフィールドのグラウンド。
ドローンの講習にも利用します。



地元の方への協力として、旧君田小・中学校の管理もしています。

高萩ユーフィールド

住所：高萩市下君田682番

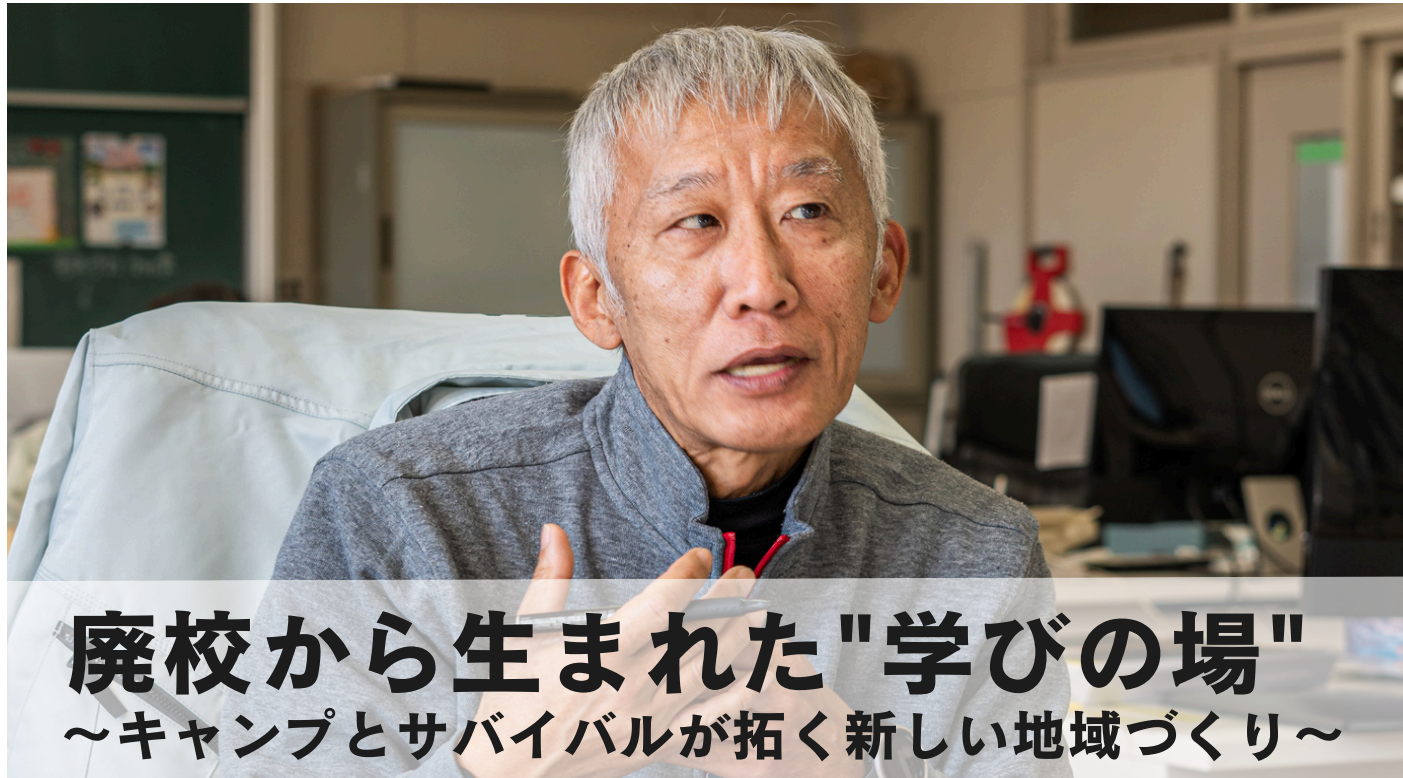
電話：0293-28-0071

交通：JR常磐線高萩駅からタクシーで約30分

常磐自動車道「高萩IC」から県道111号線で約20分

公式サイト <https://www.you-field.com>

Instagram <https://www.instagram.com/takahagiyoufield/>



廃校から生まれた"学びの場" ～キャンプとサバイバルが拓く新しい地域づくり～

高萩ユーフィールドを運営する柴田敏郎さんは「キャンプは科学です」と語ります。キャンプを単なる野外活動としてではなく、自然について深く学べる場として捉え、一歩踏み込んだ楽しみ方を提案したいと考えているのです。

高萩ユーフィールドは、旧君田小・中学校の校舎とグラウンドを活用し、当初はドローンスクールとしてスタート。2年目にアウトドアブームを受けてキャンプ場をオープンしました。施設を運営するうえでは地元の活性化協議会との対話を重視し、過疎化が進む山間部にドローンやキャンプを通じて人を呼び込もうとしています。地域との協力関係を大切にしながら、さらなる挑戦も計画しているそうです。

災害時に生きるキャンプスキル

以前から、必要最低限の装備で野営キャンプ（ブッシュクラフト）をしている柴田さんは、2024年に起きた能登半島地震をきっかけに「災害時にも役立つキャンプを伝えたい」と考えるようになりました。「実は通常のキャンプで使っている道具は、災害の時には役に立たないんですよ。例えば、調理をする時にキャンプではガスコンロを用いることが多いですが、小さいガスボンベだと2時間くらいで燃料が無くなってしまいます。途中でガスが切れたら、もう持っているキャンプ道具は一切役に立ちません。しかし昔からあるローテクの機材を使えばお湯を沸かすことくらいはできます」。ライターやマッチがなかったとしても、火を起こす方法はいくつもあるのだそう。それを知っていれば、災害時であっても煮炊きができるのだそうです。

北と南の自然が共存する土地 高萩市

自然をウォッチングする人にとって、高萩市は興味深い地域。動植物の、南限と北限が重なっているため、東北の方にしか生息しない生き物を見られたり、南の方でしか育たない植物を見つけたりすることができます。それは栽培植物にしても同じ。茨城県北部はりんご栽培の南限、みかん栽培の北限にあたります。

また、このエリアは地質学的にも注目すべき特徴があります。茨城県北部には関東一の品質を誇る火打ち石の鉱山があり、玉髄（瑪瑙）の産地でもあるのです。

「自然に興味のある人には高萩市はとてもいい場所です。街中から山は30分ほど、海なら15分程度でたどり着くことができます。海も山も楽しめる貴重なスポットといえるでしょう」



左手に持っているのが火打ち石。実際に火花をおこしてもらいました。



Profile

柴田敏郎（高萩ユーフィールド 宿泊責任者）

地元キャンパーとして「たかはぎアウトドアシンポジウム2021」のパネルディスカッションに登壇。アウトドアは海より山派。

公式サイト <https://www.you-field.com>（高萩ユーフィールド）

※写真提供（右下）：高萩ユーフィールド（ドローン撮影）



地域と共に歩むジビエ事業 ～茨城クラフトミート工房の歩み～

編集者紹介

・ゆき

ライター、デザイナー

記事に書ききれないほど、高萩市に対する熱い思い、わくわくするお話をうかがえました。高萩市はもっと楽しくなると思います。

・れいな

旅好きフォトライター

制作を通じて、普段の旅行では気づけない高萩市の魅力に触れることができました。取材にご協力いただいた皆様、心より感謝申し上げます。

作成日 2025.2.8

高萩市でジビエ事業を立ち上げたとき、地元の人々からは反対の声が上がりました。野生生物の肉を取り扱うことへのイメージがとても悪かったのです。櫻井さんが活用しようとしていたのは、地域で獲れるイノシシの肉。当時県内ではイノシシの感染症が流行していたため「病気が広がるのではないか」と警戒されることもありました。

一番関係の深いはずの猟友会の人々からもなかなか理解は得られませんでした。猟友会では捕獲したイノシシを焼却処分していたので、食用肉として活用することは互いにとって良いビジネスになるはずでしたが、面倒が起きると嫌がられてしまったのです。

実は野生生物の肉を食用として販売するためには細かな規定を守らなければなりません。例えば「仕留めるときは1発玉のみの鉄砲で首から上を撃つ」「捕獲から2時間以内に搬入する」などが定められています。

理解を得るため、櫻井さんは積極的に狩猟者の方々との交流を図りました。まずは、捕獲したイノシシを山の中から運び出す手伝いをするなど、できることから着手。さらに櫻井さん自身が狩猟の免許を取得し、実際に罠を仕掛け、イノシシを捕獲する経験を通じて、狩猟者の立場や食用肉としての規定を守ることの難しさを理解していったそうです。

実際の解体現場を見せながら、野生生物の肉を食用肉として販売するためには規定を守る必要性があることも丁寧に説明しました。すると徐々にではありますが、理解を得ることができ、事業の継続の見込みが立つようになります。

現在でも全員が賛成してくれているわけではありませんが、ジビエ肉の販売に賛同する方々がイノシシを提供してくれることで、事業は継続できています。

地域の人々との交流 一少しずつ広がる理解の輪

「移住者が地域に馴染むには、自分から率先して行動することが大切です」と櫻井さんは語ります。高萩市には小さな集落が点在しており、櫻井さんは各家庭を直接訪問してジビエ事業の話をしました。始めは話すら聞いてもらえませんでした。農家が多い地域であることから「畑がイノシシの被害を受けている」「捕獲したイノシシを捨てるのはもったいない」という声が徐々に増えていったそうです。

さらにイベントがあれば、顔を出して「高萩ユーフィールドでイノシシのジビエ事業をしています」と事業内容を具体的に紹介し、イノシシの肉や生ハムを持っていきましました。



左：茨城県ブランド豚肉「常陸の輝き」レア生ハム 右：イノシシ肉

心通う町 高萩市

「高萩市の魅力は人です」と櫻井さんは言います。「コンビニ店員さんからして、皆さんとても親切です。せかせかした雰囲気がないので、こちらもしラックスして話すことができます」

高萩市には誰にでも話しかけやすい雰囲気があるからこそ、集落での事業説明も受け入れてもらえたと感じているそうです。

「何か問題があつたら誰かが助けてくれる町です。困ったときは誰にでも相談できます」

実際に、櫻井さんが冬に山道でスリップし車が横転した際、誰にも連絡をしなかったにもかかわらず、6台ほどの車がすぐに駆けつけ助けてくれたことがありました。

Profile

櫻井太一（茨城クラフトミート工房 ジビエ事業部 総責任者）

今後の目標：イノシシ以外の種類も増やして、スーパーに出店したい

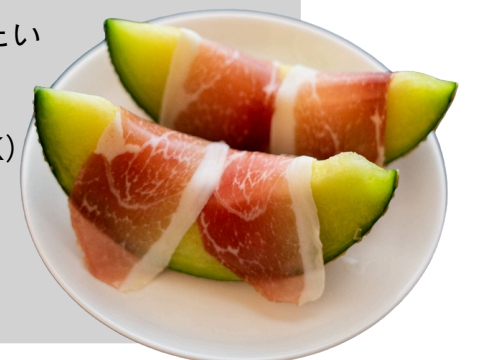
茨城クラフトミート工房（高萩ユーフィールド内）

公式サイト <https://www.hitachi-kandk.com>（株式会社K&K）

ECサイト <https://kandk.buyshop.jp/>

直営店 高萩ユーフィールド

※ジビエのため日によって取り扱いが無いこともあります



茨城をクルマ旅の終着駅に



オートリゾート in はぎビレッジ

住所：高萩市横川1534-3 はぎビレッジ内
電話：070-3132-5858
交通：JR常磐線高萩駅からタクシーで約25分
常磐自動車道高萩ICから車で約15分
<https://autoresortfun.wixsite.com/autoresort>

2023年7月にオープンした「オートリゾートinはぎビレッジ」（以下「オートリゾート」）のオーナーである永岡誠司さんからお話を伺いました。

編集者紹介

・葉月へちま

合同会社十音所属声優&旅行と映画が好きなフリーライター。私もソロキャンプをするため、素敵なキャンプ場にわくわくしました。次はぜひ利用者として訪れたいです！

・さくや

自動車免許を持っていなかったため、自動車で目的地まで行く旅行についての旅の話は興味深かったです。

この機会に免許取ろうかな。

作成日 2025.2.8

魅力は『満天の星空』

「オートリゾート」のオーナーである永岡誠司さんは、日立市で自動車販売店「カリスマジャパン」も営んでいます。

「車が好き、でかけることも好きでクルマ屋を始めました。車は単なる移動手段ではありません。クルマ旅を楽しみながら旅人が交流できる場所をつくりたいと思い、オートリゾートをオープンしました」

高萩市を選んだ理由は、山で街中の光が遮られているうえ開けた土地もあるため、木に遮られず美しい星空を眺められるからだそう。豊かな自然に恵まれた茨城県の中でも、高萩市は特に天体観測に適した場所です。

永岡さんは「この地域の魅力が県外にうまく伝わっていないと感じています。オートリゾートをクルマ旅の終着駅とすることで、茨城が、高萩が、全国から人が集まる場所にしたい」と今後の目標を語ります。

安全と心地よさを追求したキャンプ場

カリスマジャパンでは、オリジナルの軽キャンピングカー『Jumpie』&『TINY』の開発・販売も行っています。キャンピングカーを取り扱っているうちに「誰もが安心して泊まれるキャンプ場が少ない」と気付いた永岡さんはキャンパーの安全確保を徹底した施設として、オートリゾートを開きたいと考えるようになりました。

「オートリゾートは完全予約制。ゲートに防犯カメラも設置しているので、宿泊者以外が敷地に入ってくることはありません」

また利用者が心地よいひとときを過ごせるようにと、清潔でおしゃれなデザインのトイレやシャワー室を設置。

「アウトドア初心者にも安心してお越しいただけるよう心がけました。女性専用のシャワーブースも複数あるため、お子様連れや女性の利用者もゆったりご利用いただけます」

人と地域をつなぐ拠点

オートリゾートはキャンプサイトの種類も豊富です。「クルマ旅をされる方のなかにはペット連れの方も多くいらっしゃいます。そこでドッグランエリアやペットのリードを外して宿泊できるサイトもご用意しています」

多様な旅のスタイルを受け入れることで地域を訪れる人を増やそうと考えているようです。

「オートリゾートをきっかけに利用者がつながり、コミュニティが形成されていくのが理想です。移住を検討されている方とも、オートリゾートを拠点として新しいライフスタイルを一緒に生み出していただければいいですね」



オートリゾート in はぎビレッジ オーナー

永岡 誠司

Profile

- ・茨城県日立市生まれ
- ・株式会社Wonder GATE/エターナルコーポレーション/カリスマジャパン代表
- ・オリジナル軽キャンパー『Jumpie（ジャンピー）』の開発・販売